

第2回森づくり委員会における指摘事項

頁	項目	内容	対応と考え方
3	Ⅱ－1(2)③	「針広混交誘導林への誘導」の内容記述が少々極端ではないか。 国県制度の変更だけでなく、「所有者の意識」や「森林組合の意識」なども影響あるのではないか。	記述内容を一部変更します。
5	Ⅱ－4	木材価格について。外材の輸入量は近年増えていないか。 丸太は減っているが、製品は増えていないか。	数年のオーダーなら輸入量は減っているが、直近1, 2年だけなら増えているという現状である。
9	針広混交林促進策	針広混交林促進施策対象の4,000haはどこから来た数字なのか。	奥山や急傾斜地であるなど、団地化施策の中で対応しきれない部分を4,000haととらえている。個々の土地を拾って数えているわけではない。
9	針広混交林促進策	針広混交林促進施策は、誰がどうやって検討していくのか。森づくり委員のうち数名がWGに入ったらいいのではないか。行政だけでは、市民にうまくPRできないのではないか。	今後、制度設計を検討するにあたっては、森づくり委員会の中で協議していただく予定。必要に応じて勉強会などを開催するので、ご協力をお願いしたい。
10	図表Ⅲ－6、Ⅲ－7	過密人工林の面積が合わない。等	記述内容を変更します。
10	図表Ⅲ－6	「健全」の意味するものは何か。	記述内容を変更します。
13	Ⅳ－1(3)図表Ⅳ－2	例えば、平成21年ごろに3割間伐を行った施業地は、5年後にもう一度間伐をする必要がある。この表では、「H25～29における2回間伐」がゼロである。間伐できるのか。	3割間伐の施業地は、基本計画における間伐量全体においてはわずかであるため、数値としては出していない。 個別の施業の可否とは別である。
19	Ⅳ－3(4)④	新たな労働力確保策の検討が加えられたが、今分かっていることを教えて欲しい。	現在のところ、民間事業者は森林組合の下請けとして入ることが多いが、既に県税事業については、直接仕事を請け負うこともある。 受託事業については、森林組合実施を基本としていきたい。
19	Ⅳ－3	Iターン等、新しい形で山村地域に入ってきている人たちがいる現状のなかで、農業をやりながら、正規の作業班ではなく、冬に労働力として確保できるしくみが作られる必要があると思う。新しい事業体の例があるのか。	技術のある個人が森林組合と季節的な雇用契約を結ぶのは既に制度としてある。 新しい事業体がそのような雇用をするのは、労務管理の話もあり、非常に難しいのが現状。
24	Ⅳ－6	地元の木を使うのは良いことと考える。今は良い方向にいつているのか。	「公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針」が24年7月にできて、腰壁だけではなく低層建築物の木造に取り組むことになった。 今年度から建築予定の寿恵野こども園、旭地区の低家賃住宅を木造にすることが既に決まっている。 民間への波及は今後の課題ととらえている。
25	Ⅳ－6	住宅等への支援について、国県、あるいは市独自で、何か対策を考えているか。	記述にあるような内容で現在まさに検討している。

頁	項目	内容	対応と考え方
25	IV-6(4)③	市民理解の促進に関して、市民に木の良さをアピールすることはとても良いと思う。今現在、何を予定しているのか。	市だけでなく、民間の整備する公共建築にも木材利用してもらい、アピールするプレートを取り付ける、工事現場にのぼり旗たててもらう、などできることから取り組みたい。 また、環境モデル都市の取組の一つとして、エコフルタウンでは民間主導の「地産地消ハウス」を建築予定である。これは地域材を使って建て、中では地域で取れた農産物を販売する。このような施設を利用し、地域材利用を見せていく。
25		地元のお祭りで木の器の実演を行っていた。とても良いと思った。 地域材でのキットがあると良い。	地域材の流通を始め、誰が、どこでそのようなものを作っているのか、調査しながら検討したい。
27	V-1(1)	森林簿と実情が合っていないことも多々あるときく。 森林GISを整備していくなら、現状あるデータを利用していくのは良いことと思う。	豊田市でも森林簿とのかい離は多く、団地化による現在のデータを森林GISに取り入れているが、市のデータを適正にしたとしても、県の森林簿そのものの元データが変わらないのも事実。
27	V-1(2)	地籍調査の愛知県の着手率が低いとあるが、県が積極的に地籍調査をすすめるよう検討するとか、実際に行うという表現はできないか。	すぐに地籍調査をすすめるのは極めて難しいため、団地化を進める中で境界の確認を進めていく。
27	V-1(2)	愛知県の地籍調査の率が低いという理由は何？	都市部から始まったが、都市部は地価も高く、筆も細かいため効率が悪かったと推測する。 山林は、登記簿と現況の差が大きく、固定資産税への影響から所有者の理解が得られにくいということもあったのではないかな。
30	V-4	山村地域の活性化について。住んでいる人が山にかかわってくれば、一次的に山がよくなっていくと考える。	森林学校等を通して、山に関心のある森林所有者や市民を増やしていく。
全体	針広混交林のイメージ	豊田市が勧めている「針広混交林」や、経営人工林のモデルとなるような「美林」を見せていく、イメージの共有化が図られて良い。	市有林では、モデルとなるような人工林を作りつつある。 市有林施業についての記述を加える。(P36)
全体	構想	・市民としては、安心安全の森づくりが大切と思う。そのような表記が見当たらない。 ・生物多様性の観点が見当たらない。	「基本計画」は「森づくり構想」を具現化するために10年間で行政が行う実施計画である。具体的表記はないが、「森づくり構想」にはその重要性は位置づけてある。